

一般財団法人 Ruby アソシエーション

2014 年度 第 1 回臨時理事会議事録

開催日時 2015 年 1 月 27 日 (火) 14:00~15:30

開催場所 松江：オープンソースラボ (松江市朝日町 478 番地 18 松江テルサ別館 2 階)
東京：セールスフォース様オフィス (東京都千代田区丸の内 2-7-2 JP タワー 12 階)
福岡：九州工業大学 田中和明研究室 (福岡県飯塚市川津 680-4)

理事総数 6 名

出席理事 6 名 松江：松本行弘 (理事長)、井上浩 (副理事長)、山根泉 (理事)
東京：笹田耕一 (理事)、橋本明彦 (理事)
福岡：田中和明 (理事)

出席監事 今岡正一

事務局：前田修吾(事務局長)、横田早百合(事務局員)、徳永翔二(事務局員)、江角俊秀(事務局員)
オブザーバー：杉原健司(支援スタッフ)、福田一斎(支援スタッフ)、
森脇直則(まつえ産業支援センター 主任)、渡部明(島根県 情報産業振興室 企画員)

定款第 39 条の規定により出席理事から井上浩副理事長を議長として選出し、井上副理事長が議長席につき、当財団の理事現在数 6 名中、定款第 40 条第 1 項及び第 2 項の規定に従い、議長を含め議決に加わることのできる理事 6 名の出席により定足数を満たしたので本理事会は有効に成立した旨を宣し、テレビ会議システムにより出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認のうえ議事に入った。冒頭、松本理事長より今期の円滑な財団事業の実施及び来期の財団事業継続に向けて、本日の活発な協議を期待する旨の挨拶があった。

審議事項 1：「2014 年度 事業実施状況案について」

定款第 7 条第 1 項に基づき (審議事項 2 以降も同様)、議長の指名により徳永事務局員が、別添資料 1 によって 2014 年度の事業実施状況案の説明を行った。2014 年度は、Ruby 技術者認定試験の改訂や Ruby Business Users Conference 2015 の実施 (2015 年 2 月 25 日開催予定)、またアメリカの Ruby Central からの Ruby 安定版保守業務に対する支援を受けるなど、新たな試みを実施したことが述べられ、資料の各項目について説明が行われた。

以下、質疑応答。

杉原支援スタッフ：Ruby Central からの支援については勘定科目は何になるのか。それに伴い事業実施状況案における表現に修正を加える必要性も出てくるのではないかと。

今岡監事：確認中です。

徳永事務局員：確認していただいた後、修正が発生する場合は速やかに修正する。

橋本理事：Web での情報発信の項目に投稿版事例紹介についての内容が記載されていないのだが、記載したほうがよいのではないかと。

徳永事務局員：記載する方向で修正する。

杉原支援スタッフ：標準維持事業についても、コストが掛かっているという面からすると事業実施状況案に記載するべきではないかと。

前田事務局長：「メーリングリストを使用し、そちらで仕様書について議論を行いました」というような記載を加え、修正する。

審議の後、議長が、ご指摘を受けた箇所について追加及び修正を加えた事業実施状況案についての承

認を求め、全員異議なくこれを承認した。

審議事項2：「2014年度 決算見込報告について」

議長の指名により横田事務局員が、別添資料2によって2014年度の決算見込報告の説明を行った。予算案に対して決算見込の方で大きく差が出た箇所について説明が行われた。

以下、質疑応答。

山根理事：試験改訂前は受験者数が徐々に減少していたようだが、試験が改訂されて以後の受験者数の推移はどうか。

横田事務局員：現在はまだ旧試験において減少する以前の受験者数までは戻っていない状況だが、試験改訂に因んだキャンペーンを行ったり、新試験に対応した模擬問題を公開するなどのプロモーションを行っており、今後もそういった取り組みを実施していく予定である。

審議の後、議長が2014年度の決算見込について承認を求め、全員異議なくこれを承認した。

審議事項3：「2015年度 事業計画案（事業実施計画案、予算案）について」

議長の指名により前田事務局長が、別添資料3によって2015年度の実業実施計画案の説明を行った。2014年度事業計画からの主な変更点として、Webの技術情報紹介ページの情報更新、教育機関向けの（「どういったところでRubyが使われていて、どういった人材が必要とされているか」というような）情報提供、協賛会員向けイベントの開催について説明が行われた。

続けて、議長の指名により横田事務局員が、別添資料4によって2015年度の予算案の説明を行った。以下、質疑応答。

橋本理事：協賛会員数を増やすための営業活動についてはどのように考えておられるか。

前田事務局長：現実問題としてなかなかPlatinum Sponsorの数を増やすというのはハードルが高いという面があり、Gold SponsorとSilver Sponsorの新規の会員を増やしていくという方向で進めたいと考えている。

杉原支援スタッフ：補足になるが、SilverからGoldへ、GoldからPlatinumへの検討もしていたできるように営業活動を考えている。

橋本理事：当財団の収入の中の非常に大きなウェイトを占めていて、本財団の存立の基本に関わる場所のお金の流れだと思うので、協賛会員数を増やす為にわざわざお金を掛けて営業活動を行うというような業務を考えてもよいと思う。是非検討していただきたい。

井上副理事長：引き続き事務局の方で検討していきたいと思う。

笹田理事：Ruby 安定版保守事業については2015年度も公募する予定があるか。

徳永事務局員：2015年度も公募する予定である。

前田事務局長：事前確認公募というかたちをとっておいたほうが、外部から説明を求められたときに説明しやすいということもあるので、そのようにする予定である。

笹田理事：事業実施計画案において、Webサイトの技術情報を更新していくというお話があったが、予算案を見ると特段Web活用(情報発信事業)の予算が増えていないように見受けられる。これについてはどう考えておられるか。

前田事務局長：Webサイトの技術情報は、元々日立ソリューションズさんにご協力いただきあまり費用を掛けずにこのコンテンツを作ったのだが、同じようなかたちでお願いするのは難しいかもしれないので、財団内部でなるべく費用を掛けずに現状のコンテンツで古くなった部分を更新するといったかたちを考えている。

笹田理事：公募と同様に非常に重要なところだと思うので少しお金を掛けてもよいのではないかと。是非ご検討いただければと思う。

前田事務局長：予算の収入の都合上、これ以上経費を増やすことが難しいといった事情があり、現状の案ではこういった金額とさせていただいている。

審議の後、議長が2015年度事業計画案（事業実施計画案、予算案）について承認を求め、全員異議なくこれを承認した。

協議事項1：「評議員の任期満了に伴う辞任及び選任について」

議長の指名により横田事務局員が、以下の説明を行った。

・2015年6月開催予定の定時評議員会の時に、評議員全員の任期満了に伴い評議員の辞任及び選任を行わなければならないが、評議員全員を再任するというかたちでそのままの評議員の方々でよいかどうかの協議を行いたい。

議長が、意見を求めたところ異議がなかったため、現状の評議員の方々の再任というかたちで進めることに決定した。

協議事項2：「プロメトリック社との契約更新と試験事業プロモーションについて」

議長の指名により徳永事務局員が、プロメトリック社との契約内容について、2015年度から試験配信数最低保証数を1000人から700人の3年間契約に変更することを、理事の方々に事前にメールベースでご承認いただいたことの報告が行い、続いて試験事業プロモーション（模擬問題集、Ruby技術者認定試験合格者ミーティング、対策本の改訂など）について説明を行った。

以下、質疑応答。

笹田理事、福田支援スタッフ：試験合格者ミーティングはどの程度の参加者数を想定しているか。
また、試験合格者しか参加できないのか。

徳永事務局員：20名程度を想定している。

前田事務局長：まずは一回開催してみて、反応を見て今後継続していくかを決めたいと考えている。
また、それほど試験合格者のみに厳しく限定するつもりはないが、試験に合格するとういう場に参加できるというインセンティブを与えたいと考えている。

井上副理事長：合格者の方々にインセンティブを与えたいという目的はあるが、受験に結びつきたいという狙いもあるので、まだ受験していない方々にも広くイベントの存在を知ってもらうことが重要。

笹田理事、福田支援スタッフ：積極的にプロモーションしていければよい。

協議の後、議長が「試験事業のプロモーションに関しては、ご意見等あればいつでもお出しただければと思う。」と述べ、協議を終えた。

協議事項3：「協賛会員規程の改訂について」

議長の指名により横田事務局員が、協賛会員規程について、会員の特典の部分に割引受験チケット（バウチャー）を購入できるという記載が漏れており、来年度の営業活動に向けて、至急改訂する必要があるという説明を行った。

規程の改正には、理事会の議決が必要になっているため、理事の方々に審議及び承認を求めたところ、全員異議なくこれを承認した。

以下、その他の質疑応答。

笹田理事：2015年2月に開催されるRuby Business Users Conferenceの企画の進捗はどのような状況か。また、ターゲットはエンジニアというよりビジネス管理者向けなのか。

徳永事務局員：タイムテーブル等を公開し、参加者数については120名程を想定しており、既に参加者を募集開始している。現状は、Web系のエンジニアの方からの応募が多い。

前田事務局長：テクニカルな内容の場合は東京だと結構あると思うので、エンジニア向けのイベントというよりはどちらかというビジネス管理者向け。ただ、現状エンジニアの方々からの参加応募が多いとのことなので、プロモーションの仕方に工夫が必要。

徳永事務局員：引き続き企画及びプロモーションに力を入れていく。

以上この議事録が正確であることを証するため、定款第43条の規定により、代表理事理事長（松本行弘）と出席監事（今岡正一）は、次に記名押印する。

2015年1月27日

上記の通り相違ありません。

一般財団法人 Ruby アソシエーション

代表理事理事長 松本 行弘



監事 今岡 正一



2014 年度（第 4 事業年度）

「事業実施状況」 (案)

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

2014年度の当財団の活動は、Ruby 技術者認定試験の改定や Ruby Business Users Conference 2015 の実施、またアメリカの Ruby Central からの Ruby 安定版保守業務に対するの支援を受けるなど、既存の事業に対する充実化と長年の目標であった海外 Ruby 組織と協力した事業を展開するなどの新たな試みを実施致しました。

本書では当財団の 2014 年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2014 年度評議員

- ・ 出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・ 及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム
- ・ 大場 寧子 (株)万葉
- ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・ 最首 英裕 (株)グローヴノーツ
- ・ 石川 明 (株)日立ソリューションズ
- ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・ 中島 宏 (株)DTS IT
- ・ 羽田 昭裕 日本ユニシス(株)
- ・ 平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
- ・ 森 正弥 (株)楽天
- ・ 吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト
- ・ 吉田 正敏 富士通(株)

2) 理事

- ・ 代表理事 理事長 松本 行弘
- ・ 副理事長 井上 浩
- ・ 理事 山根 泉
橋本 明彦
田中 和明
笹田 耕一

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一 (公認会計士)
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾 (事務局長) が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 2 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・委員長 立久井 正和 (評議員)
- ・委員 今岡 正一 (監事)、横田 早百合 (事務局員)、
田代 秀一 (外部委員)、高橋 征義 (外部委員)

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト (既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む) を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下 3 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2015 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・応募件数: 9 件 (国内 7 件)
- ・採択件数: 3 件

①採択者: 井出 真広	プロジェクト: RuJIT: a trace-based Just In Time compiler for CRuby
RuJIT プロジェクトは, CRuby 処理系向け Just In Time コンパイラ RuJIT の構築を目指す。このプロジェクトの目標は, JIT コンパイラによる Ruby スクリプト実行の高速化にある。RuJIT では, 既存のコンパイラ最適化手法に加え, Ruby 言語に特化した最適化, 高速化の工夫を行い, 処理性能の大幅な向上を行う。加えて, CRuby 処理系への採用を目指し, 品質・互換性の向上を行う。	
②採択者: 西田 直樹	プロジェクト: DataFrameの開発による科学用途のgem開発の促進
MikonはRubyでデータ解析・可視化を簡単に行えるようにするプロジェクトです。このプロジェクトではデータ可視化用gemのNyaplot,統計処理用gemのStatsampleと連携し、データの読み込みと操作,解析,可視化をRubyで統一して行えるようにすることを目標とします。また、Web上のRuby実行環境であるIRuby上で解析・可視化を一度に行うGUIの実装を実験的に実装します。	
③採択者: Deivid Rodriguez	プロジェクト: Threading Support for Byebug
Thread debugging support in Byebug. The feature will allow users to debug multithreaded programs: thread switching, pausing and resuming specific threads, list active threads and so on.	

2) Ruby安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は 2015 年 3 月 31 日までです。また 2014 年度は、アメリカの非営利組織である Ruby Central より本事業に対して助成金の交付を受けました。

3) Rubyに関する情報発信事業

(1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Rubyをビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2014年度は新たに4件の利用事例を紹介しました。

2014年度 新規掲載企業	テーマ
株式会社インターネットイニシアティブ	Ruby on Rails で手軽に開発・運用コストを最小化できる純国産 PaaS「MOGOK」、セキュリティも万全
freee 株式会社	継続的デリバリで常に進化する会計ソフト 会計 freee
株式会社日立ソリューションズ	300画面の大規模 Web システム「建設業情報管理システム」を Ruby で構築、開発規模を 1/5 に削減
株式会社日立ソリューションズ	020 ソリューションの開発に Ruby を採用することで、短期間、低コストを実現した『ReBee』

(2) RubyWorld Conference 2014 の開催

2014年11月13日(木)、14日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、6回目となる「RubyWorld Conference 2014」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。今回の国際会議では、Ruby に関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、開発者教育の状況などを紹介する様々なセッションを通じて、Ruby がより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外 20 名が講演し、来場者数は 2 日間で延べ 876 名(詳しくは下記を参照)を数えました。オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、吉山治松江市副市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 野口聡 情報処理振興課長に、来賓ご挨拶をいただきました。

引き続き基調講演では、Ruby の開発者まつもと委員長が「Ruby が教えてくれたこと」と題し講演。また、2 日目の基調講演では、米大統領イノベーションフェロー/Mightyverse CTO、Sarah Allen 氏が「Ruby in the US Government」と題して、米大統領イノベーションフェロー・Mightyverse CTO として両分野での仕事のご紹介と、その開発プロセスにおける相違点や共通のテーマについてご講演いただきました。

初日の午後は、新たに Ruby コミュニティに貢献した方の活動を表彰す「Ruby コミュニティの新人賞」として、昨年よりスタートした Ruby Prize 受賞者

の発表と表彰が行われました。その他、国内外の Ruby の技術者、企業関係者が講演し Ruby の更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2 日間の議論を振り返るとともに、来年の Conference の開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について 2 日間延べ 876 名(11 月 13 日 495 名、11 月 14 日 381 名)

来場実数 658 名 (県内 216 名、県外 433 名、海外 9 名)

- ・ IT 企業関係者 447 名 (県内 108 名、県外 334 名、海外 5 名)
- ・ その他企業関係者 35 名 (県内 17 名、県外 16 名、海外 2 名)
- ・ 行政関係者 17 名 (県内 0 名、県外 17 名)
- ・ 研究教育機関関係者 113 名 (県内 104 名、県外 9 名)
- ・ 一般 (所属なし) 26 名 (県内 8 名、県外 18 名)
- ・ 講演者 20 名 (県内 7 名、県外 11 名、海外 2 名) ※Ruby Prize 含む

●講演者について

- ・ 国内 18 名 (企業関係者 16 名、教育機関関係者 1 名、)
- ・ 海外 2 名 (アメリカ 2 名 うち企業関係者 1 名)

(3) Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストrendをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではなく「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)
2014 年 6 月、東京	PaaS ビジネスへの活用集	約 60 名
2014 年 10 月、東京	エンジニア教育	約 80 名
2015 年 1 月、大阪	Ruby コミュニティー、イノベーション	約 90 名
2015 年 2 月、東京	Ruby Business Users conference 2015	
2015 年 3 月、松江	未定	

4) Ruby 技術者認定試験事業

2014 年 10 月 1 日より旧試験を改定し、Ruby Association Certified Ruby Programmer version 2.1 の配信を開始致しました。

認定者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定により Ruby ベースでシステム開発を行う

うえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2014年12月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	21(18)	67(58)
認定教育機関プログラム	3(3)	—
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(3)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

・会員資格

法人、任意団体及び個人

・会員種別、会費

年会費 1口 10万円(4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上(50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上(20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)

2014年12月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum :	Gold :	Silver :
年間5口以上	年間2口以上	年間1口以上
11(12)	21(19)	45(41)

※()内は前年度数

2014年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 決算見込 2015.1.23 単位:千円

	2014年度 予算案①	2014年度 決算見込	②-①
1 売上高			
1) Ruby技術者認定試験	16,330	12,477	-3,852
2) 事業者認定事業	2,200	2,470	270
3) その他事業収入	242	1,594	1,352
小計	18,772	16,541	-2,231
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1) 協賛会員	15,400	14,200	-1,200
2) 寄附金	0	186	186
3) その他	0	0	0
小計	15,400	14,386	-1,014
3 雑収入			
1) 預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1) Ruby技術者認定試験	7,720	6,408	-1,312
2) 事業者認定事業	540	266	-274
3) その他	0	0	0
小計	8,260	6,674	-1,586
5 その他、事業費用			
1) 公募型開発プロジェクト	1,500	1,515	15
2) Ruby安定版の保守業務等	3,804	3,761	-43
3) Web活用(情報発信事業)	900	200	-700
4) RubyWorld Conference開催	1,300	1,300	0
5) ビジネスセミナー開催 等	975	1,160	185
6) 標準化維持	1,000	550	-450
小計	9,479	8,486	-993
6 役員報酬			
監事報酬	600	600	0
小計	600	600	0
7 販売費及び一般管理費			
1) 職員人件費	8,100	8,350	250
2) 賃借料(事務所+駐車場)	1,164	1,116	-48
3) 旅費交通費(出張費)	1,125	900	-225
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	36	84	48
5) 消耗品費(事務用品他)	120	132	12
6) 会議費	100	3	-97
7) 使用料	60	50	-10
8) 租税公課(消費税、印紙代)	753	614	-140
9) 手数料	60	360	300
10) 委託費	3,000	3,000	0
11) 報償費	0	0	0
※諸会費			0
※雑費	500	300	-200
小計	15,018	14,909	-110
8 総収入	34,174	30,929	-3,245
9 総支出	33,357	30,688	-2,689
10 税引前当期純利益	816	261	-556
11 当期法人税	0	0	0
12 当期純利益	816	261	-556
13 利益剰余金	26,637	29,001	2,363
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	12	11	-1
Gold Sponsor (20万円)	22	21	-1
Silver Sponsor (10万円)	50	45	-5

1売上高

	単価	個数	他 係数	合計
1)Ruby技術者認定試験	12,477	1	1	12,477
12月まで	16.2	491	1	7,954
	15.8	7	1	110
RF	16.2	13	1	211
RC	15.4	41	1	631
RC	14.6	17	1	248
海外	17.2	40	1	688
1月～3月	16.2	140	1	2,268
RF	16.2	10	1	162
RC	15.4	10	1	154
海外	17.2	3	1	52
2)事業者認定事業				2,470
Sier認定	50	47	1	2,350
クラウド認定				0
教育認定				0
サポート認定				0
アップグレード	20	2	1	40
盾追加	20	1	1	20
途中入会	30	2	1	60
3)その他事業収入				1,594
				0
松江ラーメン	4.3	12	1	52
認定テキスト使用料	4.0	12	1	48
ビジネスセミナー	2	44	1	88
松江市委託事業	300	1	1	300
RubyCentral	1080	1	1	1,080
その他	13	2	1	26

2特別利益

14,386

協賛会員P	500	11	1	5,500
協賛会員G	200	21	1	4,200
協賛会員S	100	45	1	4,500
			協賛会費収入合計	14,200
個人寄付	5	36	1	180
自動販売機寄付	3	2	1	6
海外寄付	1	0	1	0
			寄付金合計	186

4売上原価

	単価	数量	係数	合計
1) Ruby技術者認定試験				6,408
12月まで テスト配信手数料等	5.9	592	1	3,516
バウチャー発行手数料	1.1	9	1	10
クレジット手数料	0.50	345	1	173
海外分	6.05	40	1	242
国内認定証印刷発送委託	0.25	350	1	88
海外認定証印刷委託	0.16	19	1	3
海外発送	1.00	19	1	19
その他	50.60	1	1	51
テスト問題改訂版作成費	32	1	1	32
テストデータ修正コンパイル費	194	3	1	583
1月～3月 テスト配信手数料等	5.9	260	1	1,544
バウチャー発行手数料	1.1	3	1	3
クレジット手数料	0.60	100	1	60
海外分	6.05	6	1	36
国内認定証印刷発送委託	0.25	130	1	33
海外認定証印刷委託	0.16	4	1	1
海外発送	1.00	4	1	4
その他	10.00	1	1	10
2) 事業者認定事業	19	14	1	266
3) その他				0

5その他事業費用

	単価	数量	係数	合計
1) 公募型開発プロジェクト				1,515
助成金	1,500	1	1	1,500
送金手数料	5	3	1	15
2) Ruby安定版の保守業務等				3,761
安定版保守の委託	3,629	1	1	3,629
by-lang.orgサーバ利用料(@=\$)	12	11	1	132
3) Web活用(情報発信事業)				200
記事作成委託	35	4	1	140
他費用	60	1	1	60
4) RubyWorld Conference開催				1,300
負担金	1,000	1	1	1,000
Ruby Prize	300	1	1	300
5) ビジネスセミナー開催 等				1,160
会場借り上げ(東京、大阪)	180	2	1	360
会場借り上げ(松江)	20	1	1	20
講師旅費	30	1	1	30
旅費	75	8	1	600
旅費	30	5	1	150
6) 国際標準維持				550
会場代	50	0	1	0
頃末さん報酬	400	1	1	400
交通費	75	2	1	150

6役員報酬

	単価	数量	係数	合計
今岡監事	50	12	1	600

7販管費

	単価	数量	係数	合計
1) 職員人件費				8,350
一式	8,350	1	1	8,350
				0
				0
2) 賃借料(事務所+駐車場)	93	12	1	1,116
3) 旅費交通費(出張費)	75	12	1	900
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	7	12	1	84
5) 消耗品費(事務用品他)	11	12	1	132
6) 会議費	3	1	1	3
7) 使用料	50	1	1	50
8) 租税公課(印紙代)※消費税別	1	12	1	12
9) 手数料	30	12	1	360
10) 委託費	750	4	1	3,000
11) 報償費	0	0	1	0

消費税(租税公課)

	課税売上高(A)	①(A×0.08)	係数	納付税額
合計				602
技術者認定試験事業	12,477	998	0.5	499
事業者認定事業	2,470	198	0.5	99
松江ラーメン	52	4	0.5	2
テキスト使用料	48	4	0.5	2

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2015 年度 事業計画書」 (案)

2015 年 4 月 1 日から

2016 年 3 月 31 日まで

2015 年 3 月 31 日

一般財団法人 Ruby アソシエーション

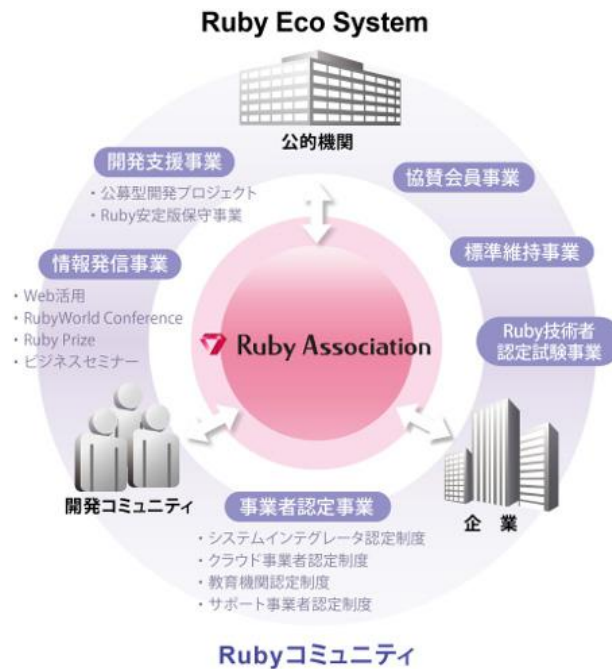
目 次

はじめに	2
1 組織体制	2
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業	2
2) 情報発信事業	3
3) Ruby 技術者認定試験事業	3
4) 事業者認定事業	4
5) 標準維持事業	4
6) 協賛会員事業	4
7) 寄付事業	5
3 関係機関との連携	5
1) 松江市、島根県	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
4 その他関係資料	5

はじめに

一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2014 年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

この持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、協賛会員数の一層の増加を果たした上で、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2015 年度も様々な事業に取り組みます。



1 組織体制

1) 評議員

引き続き評議員 13 名の体制で、法令、定款に定める権限を行使します。

2) 理事

引き続き理事 6 名の体制で、定款の定めるところにより財団を運営します。

3) スタッフ

常勤スタッフ 2 名の体制を継続致します。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業

(1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

(2) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby 処理系の保守を行います。

(3) www.ruby-lang.org サーバー運営費支援

Ruby コミュニティーが運用している www.ruby-lang.org のサーバー運営費に対して資金面での支援を行います。

2) 情報発信事業

(1) Web 活用

① 利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

② 技術情報の紹介

現在提供する「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」を Ruby の最新バージョンに対応した情報に適宜更新していきます。

(2) RubyWorld Conference 2015

2015 年 11 月 12 日（木）、13 日（金）に島根県松江市にて開催し、当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会によって準備、運営をします。従来同様に「Ruby Eco System（Ruby の持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Ruby の先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

(3) Ruby Prize

RubyWorld Conference2014 で実施した RubyPrize について、2015 年度も開催することを松江市等と検討します。

(4) ビジネスセミナー

RubyWorld Conference と同様に、Ruby ビジネスの中心地である東京、大阪、島根、福岡などで価値ある情報を提供するビジネスセミナーを開催します。

2015 年度は 4 回程度の開催を予定します。

なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold」、又は「同 Silver」として認定します。

また、教育機関が本認定試験を積極的に利用する動機となるような情報の提供を行ってまいります。

4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高い Ruby に関連したサービ

スを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

(1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、教材として「Ruby 公式資格教科書 Ruby 技術者認定試験 Silver/Gold 対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間 2 回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、Ruby のサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、2012 年春、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団は、規格文書の保守及び改訂作業を行います。

6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (1) Platinum Sponsor | 5 口以上 (50 万円以上) |
| (2) Gold Sponsor | 2 口以上 (20 万円以上) |
| (3) Silver Sponsor | 1 口以上 (10 万円以上) |

2015 年度は、Platinum Sponsor として 11 社、Gold Sponsor として 23 社、Silver Sponsor として 47 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、ビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

また、協賛会員相互の交流を促進するための有料イベントも実施いたします。

7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて、「Ruby Association Supporters」と称して寄付を募集いたします。ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 松江市、島根県

当財団は活動の拠点（主たる事務所）を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2015 年度も同フォーラムの情報発信事業（特に利用事例の公開）と連携した取り組みを進めます。

3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ①一般社団法人 日本 Ruby の会
- ②福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム
- ④Ruby ビジネス推進協議会
- ⑤Ruby Central
- ④その他、国内外の機関

4 その他関係資料

2015 年度予算を別に掲載します。

2015年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 予算案 2015.1.26 単位:千円

	2014年度 決算見込①	2015年度 予算案②	②-①
1 売上高			
1)Ruby技術者認定試験	12,477	14,187	1,709
2)事業者認定事業	2,470	2,250	-220
3)その他事業収入	1,594	1,439	-155
小計	16,541	17,876	1,335
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1)協賛会員	14,200	14,800	600
2)寄附金	186	106	-80
3)その他	0	0	0
小計	14,386	14,906	520
3 雑収入			
1)預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1)Ruby技術者認定試験	6,408	5,734	-674
2)事業者認定事業	266	540	274
3)その他	0	0	0
小計	6,674	6,274	-400
5 その他、事業費用			
1)公募型開発プロジェクト	1,515	1,500	-15
2)Ruby安定版の保守業務等	3,761	3,756	-5
3)Web活用(情報発信事業)	200	495	295
4)RubyWorld Conference開催	1,300	1,300	0
5)ビジネスセミナー開催 等	1,160	1,500	340
6)標準化維持	550	500	-50
小計	8,486	9,051	565
6 役員報酬			
監事報酬	600	600	0
小計	600	600	0
7 販売費及び一般管理費			
1)職員人件費	8,350	8,400	50
2)賃借料(事務所+駐車場)	1,116	1,140	24
3)旅費交通費(出張費)	900	900	0
4)通信運搬費(電話代、郵便代)	84	60	-24
5)消耗品費(事務用品他)	132	144	12
6)会議費	3	10	7
7)使用料	50	50	0
8)租税公課(消費税、印紙代)	614	753	140
9)手数料	360	360	0
10)委託費	3,000	3,000	0
11)報償費	0	0	0
※諸会費			0
※雑費	300	500	200
小計	14,909	15,317	409
8 総収入	30,929	32,784	1,855
9 総支出	30,668	31,242	574
10 税引前当期純利益	261	1,542	1,281
11 当期法人税	0	0	0
12 当期純利益	261	1,542	1,281
13 利益剰余金	29,001	30,542	1,542
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	11	11	0
Gold Sponsor (20万円)	21	23	2
Silver Sponsor (10万円)	45	47	2

1売上高

	単価	個数	他 係数	合計
1)Ruby技術者認定試験				14,187
国内	16.2	790	1	12,798
バウチャー	15.4	50	1	770
海外	17.2	36	1	619
2)事業者認定事業	50	45	1	2,250
Sier認定	50	45	1	2,250
クラウド認定				0
教育認定				0
サポート認定				0
3)その他事業収入				1,439
松江ラーメン	4	12	1	48
認定テキスト使用料	4	12	1	48
有料ビジネスセミナー	2	50	1	100
協賛会員向けビジネスセミナー	5	30	1	150
松江市委託事業				0
RubyCentral	1080	1	1	1,080
その他	13	1	1	13

2特別利益

29,706

協賛会員P	500	11	1	5,500
協賛会員G	200	23	1	4,600
協賛会員S	100	47	1	4,700
			協賛会費収入合計	14,800
個人寄付	5	20	1	100
自動販売機寄付	3	2	1	6
海外寄付	1	0	1	0
			寄付金合計	106

4売上原価

	単価	数量	係数	合計
1)Ruby技術者認定試験				5,734
テスト配信手数料等	5.9	840	1	4,956
パウチャー発行手数料	1.1	12	1	13
クレジット手数料	0.60	650	1	390
海外分	6.05	36	1	218
国内認定証印刷発送委託	0.25	504	1	126
海外認定証印刷委託	0.16	18	1	3
海外発送	1.00	18	1	18
その他	10.00	1	1	10
2)事業者認定事業	18	30	1	540
3)その他				0

5その他事業費用

	単価	数量	係数	合計
1)公募型開発プロジェクト	1,500	1	1	1,500
2)Ruby安定版の保守業務等				3,756
安定版保守の委託	1,800	2	1	3,600
ruby-lang.orgサーバ利用料(＠=\$150)	13	12	1	156
3)Web活用(情報発信事業)				495
記事作成委託	35	12	1	420
他費用	75	1	1	75
4)RubyWorld Conference開催				1,300
負担金	1,000	1	1	1,000
Ruby Prize	300	1	1	300
5)ビジネスセミナー開催等				1,500
会場借り上げ(東京、大阪)	200	2	1	400
会場借り上げ(松江)	20	1	1	20
協賛会員向けセミナー	5	30	1	150
旅費	30	4	1	120
旅費	75	10	1	750
講師旅費	30	2	1	60
6)国際標準維持	500	1	1	500

6役員報酬

	単価	数量	係数	合計
今岡監事	50	12	1	600

7販管費

	単価	数量	係数	合計
1)職員人件費				8,400
一式	8,400	1	1	8,400
				0
				0
2)賃借料(事務所+駐車場)	95	12	1	1,140
3)旅費交通費(出張費)	75	12	1	900
4)通信運搬費(電話代、郵便代)	5	12	1	60
5)消耗品費(事務用品他)	12	12	1	144
6)会議費	5	2	1	10
7)使用料	50	1	1	50
8)租税公課(印紙代)※消費税別掲	5	12	1	60
9)手数料	30	12	1	360
10)委託費	75	4	1	300
11)報償費	0	0	1	0

消費税(租税公課)

	課税売上高(A)	①(A×0.08)	係数	納付税額
合計				693
技術者認定試験事業	15,120	1,210	0.5	605
事業者認定事業	2,038	163	0.5	82
松江ラーメン	89	7	0.5	4
テキスト使用料	89	7	0.5	4